

(様式2)

令和 元 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1592400087		
法人名	株式会社ユーク		
事業所名	グループホーム悠々の杜		
所在地	南魚沼市坂戸6-3		
自己評価作成日	令和元年8月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	2019年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の敷地内には数本の桜の木が植えてあり、春には利用者、地域の方々と観桜会を計画して交流しています。目の前には坂戸山がそびえ立ち、季節やその日の天気による移り変わりを見ることができ、自然に囲まれた環境にあります。

- ・利用者の認知症状の理解、生活歴や性格、一人ひとりの思い、できる力を大切にしています。施設での生活が自由にその人らしい生活を過ごしていただけるよう「自分だったらどんな介護を望むのか」と利用者の気持ちに寄り添い個別ケアを一番に取り組んでいる。
- ・食事の準備や盛り付けを一緒に取り組み、ときに旬の野菜・山菜を使い行事やお楽しみ会を計画して、利用者・家族・地域の方と食事とおやつ作りをして交流の機会を作っている。利用者の希望を聞き、近くの食堂やすし店へ外食やケーキを食べに出かけたり、晩酌を楽しんだり、気分転換ができるように職員も一緒に取り組んでいる。
- ・地域のサロン(お六の会)に呼んでもらったり、施設の行事に地域の人に来ていただき交流をしたり、認知症や介護について相談も受けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、県内有数の豪雪地帯である南魚沼市(旧六日町)の中心部に近い温泉街に位置し、周囲には旅館やケアハウス、アパート等が立ち並び、人の気配を感じながら過ごすことができる。事業所の前方には坂戸山を仰ぎ、後方には魚野川が流れ、敷地内には桜の木が並び、自然の美しさと季節の変化を楽しむことができるので穏やかな雰囲気が漂う環境にある。

事業所は介護付き有料老人ホームを主体とする3階建ての複合施設の1階にあり、天気の良い日には利用者は広い敷地内を自由に行き来して、屋外のベンチに腰をかけて山々を眺めたり、風を感じたり、畑を見に行ったり、思い思いの時間を過ごしている。

職員は20～60代と幅広い年齢層で、昔の大家族や三世代家族の家庭のような安心感と温かさのある雰囲気がつくり出されている。利用者はこうした環境の中、「できることは一緒にやっとう」という姿勢で自立支援に取り組む職員と共に穏やかに、かつ活き活きと生活をしている。女性利用者が割烹着を着て台所仕事や洗濯物干し等を行っている姿は、一緒に暮らし家族(利用者や職員)を支える側となっている自分への充実感や満足感、喜びに満ちた笑顔があり印象的であった。

管理者と職員は、理念にある「利用者の個性や思いを受け止め」「笑顔で」「敬いの心を持って」を日々実践しており、利用者が歩んできた人生と豊かな経験を尊重し、一人ひとりの人生がその人らしく地域の中で継続していきようプライベートな時間や好み、家族や友達とのつながりを大切にしている。

地域の方々と積極的に交流しながら利用者は地域の一人となつて暮らし、地域の拠点として活動を展開しながら、管理者・職員は、現状に満足せず向上心を持って前向きに取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	何を大切に利用者へ向き合うのか、日々のミーティングでは、理念を掘り下げて職員全体で話合う機会を作るようにしている。	理念は平成29年3月に職員全員で見直し、食堂や職員室等に掲示していつでも確認できるようにしている。毎月の定例会では理念の「個性を大事に」「専門職としての意識」を実践できているか振り返っている。理念はパンフレットや事業所の広報誌に掲載したり、玄関に掲示することで家族や地域にも発信している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンへ毎月参加している。事業所の行事の案内を作成し地域の方々と交流の場をもうけている。畑で収穫した大根を近隣へ配って交流している。今年から隣のホテルの女将に運営推進委員会をお願いし、施設の運営について理解してもらう機会が増えている。	地域との関係づくりには積極的に取り組んでおり、毎月公民館で開催される地域サロン「お六の会」や地域の草取り等に参加したり、近所のカラオケ店に行ったり、回覧板のやり取りなど、日頃から地域の方々と交流している。事業所の観桜会や作品展、収穫祭には地域の方や家族、知人・友人を招いてつながりを深めている。利用者個人が地域の方々に受け入れられ、交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロンとの交流時に認知症の接し方や勉強会を行っている。平成30年度は「より生き生きと健やかに暮らせる地域」を目指し、包括支援センター職員、坂戸地域区民と話し合をしながら施設の役割について検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には利用者・家族・区長・老人会長・市役所担当者が参加しており、事業所を身近に感じてもらえるようなテーマを決めて2ヶ月に1回開催している。事業所報告した後、助言やアドバイスしてもらいサービスの向上に活かしている。	今年度から隣接のホテルの女将がメンバーに加わり、ありのままの利用者の様子を見てもらい、事業所の現状を報告して理解を得ている。年に3回は山菜祭りや学習会、作品展等の行事と合わせて開催しており、家族や地域の方々、知人・友人等、事業所や利用者の関係者多数から参加してもらい、事業所の取り組みを発信したり、多角的な視点から点検してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の介護サービス事業所会議に出席し意見、情報交換を行っている。推進会議や事故報告等の提出時、事業所の取り組みを介護保険係の担当者へ報告・相談し指導していただいている。	市担当者は運営推進会議に出席しており、事業所の考え方や目指す方向性について理解が得られている。また、生活保護を受けている利用者のところへ定期的に担当者が訪問している。市主催の福祉・医療の関係者が参集する会議では、市からの情報提供や連絡があり、地域の状況等について意見交換や情報共有が図られている。日常的にも気軽に相談・助言が受けられる関係性が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケアの研修に参加し、職員全体で勉強し、マニュアルも見直し、作成した。年度末に全職員へアンケートを配布し統計しホーム会議で話し合いをしている。	言葉による行動制限には一番注意しており、言葉がけへの配慮がなされている。自己点検シートを用いたり、毎日のミーティングの中で職員間で確認や振り返りを行いながら身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠は行わず、職員が手薄な時間帯にはセンサーを使用することもあるが、職員間で声をかけ合いながら利用者の所在や安全の確認に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の心的ストレスにも配慮し、1人では抱えこむことがないように、毎日のミーティングで管理者は職員へ声を掛けるようにしている。皮下出血等発見時は記録に残しながら全体で把握し分析するようにしている。	併設事業所と合同で接遇に関する研修を実施しており、身体的な虐待のみならず、言葉や無意識の対応による虐待についても学び、意識してケアに取り組んでいる。不適切な言葉がけや対応があった時には職員間で注意し合ったり、また、管理者は職員のストレスや疲労にも注意を払い、個人面談を行うなど心のケアにも取り組んでいる。	事業所ではマニュアルを整備して虐待防止に取り組んでいるが、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会は持たれていない。職員の虐待防止への意識を高め、徹底していくためにも、どんな行為が虐待にあたるか、早期発見と対応についてなど、定期的に職員間で確認し合い、研修を重ねるなど今後の取り組みに期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の入れ替えもあり、今年度は11月に研修会を計画している。利用してる利用者もいるので職員全員で制度について理解できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。事業所のケアに関する取り組み、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実態については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ季節の行事案内をしたり交流ができるように計画したり、手紙や訪問時、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	利用者の意見や要望は日常の関わりの中で汲み取るようにしている。家族からはアンケート調査や懇談会の開催、意見箱の設置等で意見を拾い上げる取り組みを行っている。家族の面会時や運営推進会議では、管理者は家族が話しやすいように、家族の気持ちを引き出せるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定例会や毎日のミーティングの際意見や提案を聞くようにしている。事業所内で解決ができない課題は管理者が会社の代表に要望意見を報告し改善に努めている。	管理者は職員が意見や提案を言いやすいようにアンケートを実施して定例会で話し合っている。普段の業務の中での意見や提案については対応できるものはすぐに対応しており、管理者が随時法人役員と相談している。職員からは避難口への階段と手すりの設置や、利用者が一人になれる空間づくりのためソファの設置場所について意見があり、反映されている。	職員は、管理者とは個別面談等で直接意見や要望を伝えているが、運営に関する権限を持っている法人役員とは面会したり直接意見を交わす機会がない。役員が現場のことを知り、職員の声を聞いて運営に活かしていくことは働く意欲の向上やサービスの質の確保にもつながる大切なことである。今後、その仕組み作りに取り組んでいくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議でグループホームの実績や労働条件等報告して職場環境整備をしている。勤務シフトの見直しやスケジュールの調整等相談には随時応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修にはなるべく多くの職員が受講しスキルアップに努めている。毎月の定例会には、研修報告を行い職員全体で研修で得た知識を日々の業務やケアに活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会と研修に参加した際に他施設職員との交流のなかで、情報交換や訪問の機会を持つことができている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問に伺い担当職員や市の担当者などさまざまな立場の方から情報を得るようにし、入所後もご利用者が安心して生活できるように努めている。また、一人ひとりの置かれた状況や不安を把握し柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからの情報収集と御家族との面談に困っていること、不安に思っていることなど要望をお聞きし、安心して施設入所してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状況や家庭環境などにより、早急に対応しなければならない場合もある為、緊急時は空き室があれば柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に教えてもらうことも多い。得意な分野の力を発揮できる場面が多く持てるようにセッティングや工夫、声かけに配慮している。常に感謝の気持ち伝え、和やかな生活ができるように声かけをしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ができる事、事業所ができる事等をお互い確認しながら計画を立てている。電話連絡や手紙で報告を行い、家族と密接な信頼関係が構築できるよう努めている。	利用者にとって家族は精神的な支えであり、大切な存在であるとの認識から、面会の機会が増えるように行事の案内や受診時の付添い、衣類の入れ替え、外出・外泊等で協力をお願いしている。面会時には家族の思いを聞き、一緒に考えるようにしている。管理者は家族と常に情報共有していくことが大切と考えており、毎月送付する広報誌には利用者の様子等を丁寧に記載している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院や衣料店の利用をしてもらっている。また、他施設へ入所している兄弟の所へ面会に行ったり、兄弟の畑へ野菜を収穫に出かけたりと馴染みの人・場所が途切れないように支援している。	センター方式のアセスメントシートを活用して情報収集し把握している。住まいが変わっても利用者との関係がある人や場所とつながり続けていくことが大切との考えから、利用者のニーズに応じて墓参りや自宅へのドライブ等、個別に支援している。家族や知人・友人とは電話や手紙等で連絡を取り合ったり、友人の迎いで一緒に馴染みの場所へ出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士がよい関係を築けるように職員が架け橋となったり、利用者同士のかかわりを支援している。利用者同士が居室の行き来ができるように場面作りにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への住み替えが必要になったときは、ご本人の状況や情報を細かく伝えるように努めています。住み替え後もご家族からの手紙などで、様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望・意向の把握に努め、それに応じた声かけや接し方をするように心がけている。	日々の関わりの中で利用者とのコミュニケーションを大切にして思いや意向の把握に努めており、気づいたこと等も含めてミーティングで報告し業務日誌にも記載して情報共有している。意思表示が難しい利用者には選択できるように声かけを工夫したり、表情や仕草から読み取ったり、家族に確認したりして把握している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅訪問をしたり、センター方式を活用しご本人・家族・関係者などからこれまでの生活の把握に努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用して、これまでの暮らしや生活歴の把握に努めている。居宅のケアマネージャーや利用していたサービス事業所からも情報収集している。入居後に得られた情報はアセスメントシートに追記して情報を整理し職員間に周知を図っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、利用者一人ひとりの身体・精神状態・生活リズムを把握し、状態の変化が合った場合に早急な対応を心がけケア内容や介護計画の見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は計画作成者が担当職員とともにアセスメントを行い3ヶ月ごとにモニタリングを実施している。ご利用者・家族の率直な言葉が盛り込めるように家族と日程調整をお願いし参加していただいている。	担当職員と計画作成担当者が共同でアセスメントを行い、他の職員の意見も取り入れて介護計画を作成している。サービス担当者会議には利用者や家族も参加しており、必要に応じてかかりつけ医や看護師からも意見聴取して介護計画に反映させている。介護計画には家族の役割や市福祉課、地域包括支援センターも位置付けてその人らしい暮らしに着目した内容で作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は6W1Hを基本に気づきや工夫など実践できたことの結果として残し職員間で情報を共有している。記録を基に介護計画の実施と評価を行っている。また、確認箱を設け出勤時は必ず記録物に目を通すことを徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合もあり受診や買物の代行を行っている。ドライブ・サロンでお茶会・外食の計画をご利用者と職員で立てて実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の意向を踏まえたドライブ外出、近隣の足湯、地域の行事、桜や菊祭り、雛飾り見学など季節を楽しみながら外出支援できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医が継続できるよう連携し、往診も行ってもらい支援している。家族が遠方の場合依頼があれば受診の代行もしています。内科と歯科は協力医療機関があるため連携している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援しており、訪問診療を希望する利用者には協力医に転医している。受診は基本的には事業所で対応しており、利用者の様子を職員が口頭や文書にまとめて医師に報告し、顔の見える関係性を築いて適切な医療を受けることができている。受診後には必ず家族へ受診結果を報告して情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤していない為、併設している有料老人ホームの看護師へ相談している。医療機関へはその都度状態を報告し連携をとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供し、入院中は定期的に病院を訪問し状況を確認しています。退院時は、医療機関より情報を得て、状態にあわせた対応ができるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化への対応として入所時に本人、家族の意向を伺い、事業所の取り組みや家族の思いを確認するようにしている。併設施設の特浴槽利用等も必要時には、協力体制を整えている。今後は、地域の関係者とチーム支援を検討していきたい。	入居時には重度化した場合や終末期の対応について文書で丁寧に説明しており、現在の体制でできること、できないことを伝えて家族の意向等を確認している。利用者の心身の状態に応じて段階ごとに家族と話し合い、生活の場が変わるリスクを十分説明し家族の理解を得た上で、より適切な生活の場への移行を支援している。管理者は条件がそろえば看取りを受け入れたいとの思いがあり、職員間で勉強を続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時用のマニュアルに沿って対応できるように定期的に訓練し、実際に起きたときに冷静に確実な情報を伝えることに努めている	事業所では、毎月1回マニュアルに基づき骨折や窒息、誤薬、意識低下等、日常起こりうる事故や急変を想定した実技訓練を実施し全職員が実践力を身につけている。また、消防署職員による救命研修を実施することもあり、適切な初動対応が行えるよう備えている。職員室には医療機関等の連絡先や救急車の要請手順を掲示して職員に周知を図り、迅速な対応ができるよう努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回併設している有料老人ホームと合同の避難訓練、消火器や非常通報装置の取り扱いについて実施しています。地震や水害についてもマニュアルを作成し、施設内で月2回は訓練をおこなっている。地区の消防団と協力体制について検討中である。	事業所では毎月1回昼夜の地震や火災を想定して避難訓練を実施している。避難口が玄関と台所の2か所のため、各居室の腰高窓からの避難も実施して経路を確認している。災害時の自動通報先には区長も登録されており、有事の際の協力を得られる体制になっている。また、水害の恐れがある地域でもあるため、併設する有料老人ホームの3階へ避難することを職員や地域の方々と確認している。今後は災害による停電時の対応について検討が必要ではないかと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴・居室内など個人のプライバシーを守り、記録は事務所で記入個人情報の取り扱いに注意している。一人ひとりに合わせた言葉掛けに取り組んでいる。	職員は利用者一人ひとりに対し「敬いの心」を持って、寄り添いながら穏やかに丁寧な言葉かけを行っている。入浴や排泄の介助の際は最小限の見守りで自立を促し羞恥心に配慮した対応をしている。利用者の呼び方については、かしこまり過ぎず尊厳を大切にしながら、一人ひとりに合った呼称を使えるよう本人、家族に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にご利用者に関わり、ご利用者の思いをお聞きしている。遠慮されてないか等、ご利用者の表情や言動に注意して傾聴し、選択できる内容等自己決定しやすいような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調を考慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、モーニングケアでそれぞれ髪を整えたり、髭剃りができるように支援している。外出する際は行き場所を話して、本人の気に入った服やスカーフ、帽子等を選んでもらい外出の支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食盛り付けは職員と一緒に準備している。下膳やテーブル拭きをご利用者をお願いしできる事してもらっている。てんや物を取り、好きなものを食べて楽しんでもらっている。	主食と味噌汁は事業所で調理し、副食はクックチルを使用しているが、利用者の好みや食べたい物を取り入れてアレンジしている。利用者一人ひとりの力に応じて買い物や盛り付け、後片付け等、できることを役割にして参加してもらっている。畑で採れた野菜を使って漬物を作ったり、収穫祭(芋煮)を実施したり、たこ焼きやホットケーキなどおやつ作りを楽しんでいる。また、外食したり仕出しや弁当を取って雰囲気を変えるなど、食の楽しみに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の記録も行い、状態に合わせた飲料や飲みやすいカップ等の工夫をしている。食事量の減少などが見られる場合には、医師に報告・相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に嚥下体操、毎食後口腔ケアの声かけをし、確認をしている。就寝前には、義歯の洗浄を行っている。本人の状態に合わせ訪問歯科を依頼し評価を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握できるよう、必要な方は排泄チェック表を記入している。適度に誘導することで失敗することなく、トイレで排泄ができるように支援している。	現在は自立している利用者が多いが、排泄感覚が低下している利用者には排泄パターンを把握して声かけや誘導を行うなど、一人ひとりに合わせてトイレで排泄することを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便確認・記録し、便秘の予防として繊維質の多い食品、乳製品、水分が多く取れるよう好きな飲料で摂取してもらっている。また散歩や運動を取り入れて、自然排便を促すように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は基本的に午前中を目安として行っているが、希望や状態に合わせて柔軟に対応している。楽しめるよう、入浴剤・柚子湯を導入している。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望に沿って対応しており、毎日入浴する利用者もいる。ゆっくりと気持ちよく入浴してほしいとの思いから、湯温を一人ひとりの好みに合わせるなど細かな配慮をしている。また、温泉に行ったり、入浴剤(温泉の素)を使ったり、菖蒲やりんごの季節風呂を企画して楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり睡眠が取れるように湯たんぽや低反発のクッションを導入して安楽で気持ちよく休息が取れるようにしている。不眠傾向のご利用者には足浴を行ったり、温かいお茶を準備したり寄り添うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルし職員が確認できるようにしている。薬の変更時は本人の状態を把握し医療機関と連携が図れるようにしている。薬剤師からの講習会をもうけて、薬の一人ひとりの注意事項や視点を理解することができた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野で一人ひとりの力が発揮してもらえるよう掃除・洗濯・縫い物・編み物・手工芸等、職員が一緒に取り組み支援している。飲酒が楽しみなご利用者にはノンアルコールビールで晩酌の日をちを決めて楽しみをもって生活してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者の意向を踏まえたドライブや外出、近隣の散歩を行っている。また花見や菊祭り、雛飾り見学など季節に応じた外出支援も心がけている。	食材の買い物や事業所周辺の散歩へは日常的に出かけている。季節ごとに地域の行事や祭り、山菜採り等に出かけたり、その日の気分でドライブやアイスクリームを食べに行ったりと外出を楽しんでいる。利用者の個別のニーズに対しても、家族や友人の協力も得て一人ひとりに対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して少額の現金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも外出時は自分で払ってもらおうように財布を渡し工夫している。小遣帳に記入している人もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家庭状況により、毎月、塗り絵やカレンダーを作成し孫に手紙と一緒に送付し交流ができるように支援している。家族からプレゼントや便りへ職員と一緒に手紙を書いたり、電話で会話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物をご利用者と一緒に育てたり、野の花と一緒に飾り季節感を感じてもらえるような心がけている。ご利用者同士トラブルや不安がないようその都度対応し、居心地のいい空間作りに努めている。	玄関から食堂にかけて利用者の作品や季節ごとの装飾品が飾られており、テーブルには季節の花を飾って落ち着いて過ごせる雰囲気づくりをしている。献立表や日課表等のお知らせは利用者に見えやすい高さに掲示されている。食堂の他にゆったりと過ごせるソファを設置したり、一人で過ごせる場所もあり、利用者はその日の気分で場所を変え、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが限られているが気のあったご利用者同士で過ごせるよう、玄関ホールやレクルームにくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は家族と相談して、馴染みの食器や写真、使い慣れた家具等を持参頂き、利用者の居心地よさに配慮している。	居室は和室と洋室があり、部屋の広さにも違いがある。居室には使い慣れたテレビ等の他に遺影や位牌、家族との写真などの思い出の品や、趣味の将棋盤や絵の具等を自由に持ち込んで自分らしい居室づくりをしている。一部の居室には内鍵があり、また、全居室のすりガラス戸に目隠しをして利用者が安心して過ごせるようにプライバシーにも配慮が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子の高さや居室を畳の部屋に変更したりとその人にあった環境を整える努力を行っている。環境の見直しを実施して、トイレの電気は自動に、高めの電気のスイッチは低い位置へ移動した。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				